

## 今月のトピック

### 水稲直播栽培の新たなチャレンジ



力強い播種機!



播種作業の様子です。

5月10日から13日にかけて、水稲直播栽培の播種作業が実施されました。管内における水稲直播栽培は、収量が安定しなかったことから、昨年度は6ha程度まで減少しましたが、今年度は、播種方法をこれまでの無人ヘリによる散播から、打込み式点播機による点播へ全面的に切り替えて、田島町・伊南村・南郷村で約20haの播種が行われました。

打込み式点播とは、代かきハローに播種機をセットしトラクタで播種する方法で、仕上げ代かきでトロトロになった土壤に播種装置で土中5~10mm程度の深さに種子を打ち込むものです。仕上げ代かきと同時に播種するため、柔らかい最適な土壤条件で播種することができ、播種の深さが適切かつ一定に保たれ、安定した出芽と根張りのしっかりした稲に育てることが出来ます。また、8~10条の播種装置から、一定間隔で数粒の種子をまとめて打ち込むことから、苗立ち後は通常の機械移植と同様に株状となり、適切な肥培管理を行うことが出来ます。

直播栽培技術は水稲春作業の大幅な省力化・低コスト化を図る技術であることはもちろんですが、稲作の担い手への集積やトマト・花きなどの園芸品目の拡大・強化、集落営農の展開など、地域農業変革の実現を支える重要な技術でもあります。

今年の8月には、管内の直播ほ場を会場に現地研修会の開催を予定しています。具体的な日程や場所等については各町村やJAを通してお知らせしますので、実際の生育状況を確認しながら水稲直播栽培の今後の導入に向けて検討をお願いいたします。

(農業振興部)

### 「第51回南会津地方植樹祭」開催される

爽やかな初夏の風の中、去る5月23日、南郷村「高清水自然公園」において南会津地方植樹祭が開催されました。

これは、南会津地方緑化推進委員会と南郷村緑化推進委員会の共催によるもので、明和緑の少年団や地元の南郷第一、第二小学校の児童を含む約200名が参加し、オオヤマザクラやレンゲツツジの苗木を植え、緑づくりを行いました。



式典の中で、南郷村の馬場荘吉さんほか6名の方が緑化功労者として表彰され、また、南郷第一、第二小学校及び田島第二小学校緑の少年団、明和緑の少年団には、主催者より記念樹のオオヤマザクラが贈られました。

更に、南会津産の木製玩具を販売している(株)高島屋から、その売り上げの一部を南会津地方の緑づくりに役立てるよう、昨年引き続き、南会津地方緑化推進委員会に寄付金の贈呈がありました。

なお、植樹祭の経費の一部には「緑の募金」が活かされています。

(森林林業部)



元気に育ちますように。



## ふるさと田島の味をゆうパックで



元気な母ちゃん達を作っています!

5月23日、田島町母ちゃん農産物直売実行委員会（代表：渡部貞子さん）では、本年より田島の味をゆうパックにして都市の消費者100名に宅配を始めました。

中身は、会員が栽培したグリーンアスパラガスと、心をこめて作った草餅・白餅・にんじん・きゅうり・ふきのとうの味噌漬け・大根のゆで干しの5種類に山椒の葉が添えてあります。昨年までは、田島町の依頼を受け姉妹都市等への「ふるさと便」に取り組んでいましたが、今年からは自分たちでお客さ

んを見つけるという、独自の活動になりました。

会員は、それぞれ得意分野を活かして役割を分担し、宣伝、顧客確保、生産加工、販売等自分たちですべてをこなしています。次回の計画は秋頃で、現在会員（母ちゃん農産物直売会のファン）を募集しています。詳しいお問い合わせは代表の渡部貞子さん（電話：0241-62-1662）までお願いします。

（農業普及部）



心のこもったアスパラガス

## 地域に根付いているキノコの人工栽培講習会



熱心に取り組む参加者の皆さん

去る5月10日、檜枝岐村特産事業所において、ムキタケ、ブナハリタケの人工栽培技術の定着を目的に、参加申し込みのあった16名（うち女性1名）の方々に対し講習会を実施しました。

ムキタケ、ブナハリタケは、ともに昔から東北地方で野生のものを採取し、食べてきたキノコですが、利用されている地域が限られているため、人工栽培については従来それほど行われてきませんでした。

そんなことから講習会参加者も、地域の特産品あるいは郷土料理の食材としての観光用消費をねらう檜枝岐村の旅館業を営む人達を中心になっていました。

当日は福島県林業研究センターと(財)福島県きのこセンターから講師を招いて講義いただいた後、原木にドリルで穴をあけ、

種駒を打ち込み、林地にほだ木を伏せるところまでの作業を体験してもらいました。

参加者のうち野生キノコを販売している方々から話を聞いたところ、県外の人から料理方法についてよく質問を受けるということでしたので、今後は管理指導だけでなく料理方法やPR方法の検討会も併せて行う予定です。

ムキタケは味に癖もなく様々な料理に応用されているようですが、ブナハリタケは柑橘系というか独特の香りがあるので、地元ではナス・ピーマンと一緒に油で炒め、味噌で和えて食べるのが一般的です。

レシピを増やすため、料理自慢の皆さんからのアドバイスを待っていますので、森林林業部（電話：0241-62-5375）までご連絡をお願いします。

（森林林業部）

## 田島町花卉部会の宿根かすみそう出荷始まる



5月23日、田島町花卉部会の宿根かすみそうが初出荷されました。

これから11月初旬まで東京都の大田市場を中心に、遠くは関西の方まで出荷される予定です。また今年も、田島町花卉部会だけでなく、南会津地方全体から田島ブランドのかすみそうとして生産、出荷されます。

「田島のかすみそう」は全国でもブランド品として扱われ、どの産地にも負けない品質を誇っています。今年も品質の良いかすみそうが消費者へ届けられそうです。

出荷する宿根かすみそうの厳しい検査



「大工の仕事が好き！」

田島町 大桃 里香さん



おとうさんと一緒!

NHKの連続テレビ小説のヒロインが「大工さん」を演じたのは数年前の話になりますが、この年、小学生の「将来なりたい職業」の一位に「大工さん」が選ばれたそうです。私たちの生活でもっとも多く刻を過ごし、数々の思い出に満たされる家。その家を作る「大工さん」は、昔も今も子供たちの憧れになっています。

田島町にも、そんな夢を叶えた大工さんが一人います。その方のお名前は、大桃里香さん。大桃さんは大桃建設工業(株)に大工として入社して9年目、最も充実した時を過ごしています。

大桃さんのお父さんは元々大工さんでしたが、高校を卒業するまで大工という職業に興味は抱かなかったそうです。しかし高校卒業後の春休みに偶然、大工さんがきびきびと働いている現場を目の当たりにして、「私も一緒に働きたい」との思いが突然湧き上がり、進学するはずだった専門学校の入学を取り消して今の会社に入社しました。

大桃建設工業(株)は国産材を使用した本格和風建

築を主に取り扱う会社です。大桃さんも郡内や福島、郡山で個人住宅の建築や老人ホーム、学校体育館の内装などを手掛けてきました。遠いところでは、埼玉県までお寺の改修工事に出かけています。古い農家を田島市街から奥会津地方歴史民族博物館へ移築したときは、今では考えられないような太くて立派な柱や梁が使われていたので、普通の住宅を新築する時間の2倍以上かかりましたが、複雑な木の継ぎ手などが勉強になったそうです。

最近ではうつくしま未来博で披露された「森の学校」の建築に携わりました。当時は毎日朝早くに田島町を出て須賀川市まで通う生活でした。「森の学校」は日本の伝統的な工法に従って、昔ながらの土壁や粗朶(そだ)葺き屋根が用いられており、大桃さんも粗朶を下郷町や会津坂下町から調達してきました。会期中は「森の学校」が来訪者に大変好評で、当初は期間限定であったものを恒常的に設置することになったので、未来博終了後に補強工事を行ってきたとのことでした。

「大工」と聞くと、力仕事で大変だとか、休みがないとか、マイナスイメージで見られることもありますが、大桃さんはそんなこと全然気にしていません。自分が心底好きになって始めた仕事ですから、「大工さん」の全てが楽しいのです。自分が造ってきた家で特に印象深かったのは?と質問すると、「関わってきた建物全部が面白かった」との答えでした。大桃さんに出会ったのは田島町内のお寺の改修工事現場でしたが、そこはドンドンと釘を打つ音が威勢良く聞こえる、活気に満ちた現場でした。そして仲間の大工さんと声を掛け合いながら働く大桃さんの笑顔が、とても印象的でした。

(森林林業部)



～研修会・講習会等お知らせ～

内 容	月 日	場 所
①農業機械研修：トラクタ基本運転①	7月 1日(月) ～ 4日(木)	農業短期大学校(矢吹町)
②農産加工研修：糠漬け加工	7月 3日(水)	農業短期大学校(矢吹町)
③専門研修：果樹新品種の特性	7月 5日(金)	農業短期大学校(矢吹町)
④農業機械研修：コンバイン保守点検整備	7月 9日(火) ～ 10日(水)	農業短期大学校(矢吹町)
⑤農薬危害防止中央講習会	7月 10日(水)	会津大学(会津若松市)

※お申込み・お問合せ先：南会津農林事務所 地域農林企画室 TEL 0241-62-5866  
農業普及部 TEL 0241-62-5262



# 南会津再発見

「福島県立山村道場」は、昭和12年3月農村復興を担う後継者育成を目的に県内2番目に設置され、同年9月県立会津山村道場と改称。県内外から若い農業後継者を受け入れ、全員寄宿生活により寝食をともにし、精神鍛錬と若い後継者教育に励みました。

昭和25年には、福島県会津経営伝習農場として、長年にわたり農業後継者の育成等を行ってきましたが、時代の変遷とともにその役割も変化し、昭和47年からは、会津経営伝習農場の建物を利用し、福島県南会津野外活動センターとして、青少年の健全育成等を目的とした野外活動拠点施設に生まれ変わりました。

その後、平成元年に田島町に移管され田島町野外活動センターとして、多くの方々に利用いただいておりますが、施設が老朽化したことから、このたび「御蔵入の里 会津山村道場」として新たに整備が行われてきました。

現在は、ほぼ整備が終わり、山村道場本館(野外活動センター管理棟)及び食堂部分は、復原改修が行われ「森の体験館」として都市農村交流をはじめ、木工体験や展示施設として利用が計画されております。

その展示施設において、本年8月5日～9月10日まで、一流画家の作品である「日本の先覚者100人の肖像画展」が予定されております。

そのほか、「御蔵入の里 会津山村道場」には、山荘

## 「お蔵入りの里 会津山村道場」 ～ 野外交流施設・民俗資料館

田島町農林課

風コテージやオートキャンプ場、交流広場、しゃくなげ園、グラウンド、アスレチック広場等を備えており、県内外から多くの人が訪れております。

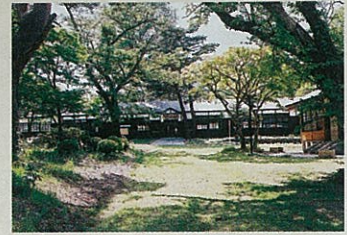
また、隣接して「奥会津地方歴史民俗資料館」があります。

資料館は、奥会津地方の伝統文化を保存展示、伝承することを目的に、郷土の歴史・民俗(民具)資料、文化財などを収集した展示館・収蔵庫を核とし、民家(染屋・馬宿・旧猪股家)を移築し、木地小屋・炭焼小屋・水車小屋などを再現しております。

さらに、藍染・わら細工体験もでき、多くの皆さんにご利用いただいておりますので、まだご利用になったことのない方も、お気軽にご利用ください。

### ◆施設利用等お問い合わせ先

〒967-0014 福島県南会津郡田島町大字糸沢字西沢山  
御蔵入りの里 会津山村道場 電話：0241-66-2108  
奥会津地方歴史民俗資料館 電話：0241-66-3077



歴史を感じるたたずまいです。

## 今月のコラム

### 「味おんちの独り言」

(農業振興部長 小山 正雄)

4月、南会津地方は雪解けの季節。これから始まる生物の息吹きを感じずこの季節に南会津にやって来た。転勤前の職場では、同僚達から南会津の自然は素晴らしいし、そういう大自然が育てた“そば”は美味、天下一品である。うらやましいと言って送り出してくれた。

しかし、実を言うと私は元来、そば、うどんはほとんど食せず、ラーメン、特に味噌ラーメン大好き党員なのである。

赴任早々からそばを食する機会があった。まあまあの味だと思った。

数日後、また機会があった。館岩村の民宿である。昼食を取るためだったのだが、建物に入った瞬間、ここに12～13年前宿泊し、そばを食した記憶が甦った。あの時、宴も終わりに近づいて、そばが出た。そこにいた方々は、美味しそうにそばを食べ、部屋に引き上げた。私は御飯を待ったが、なかなか出てこないで聞いたところ、「そばが御飯の代わりですよ」と言われ、「なんで?」と思った。止む無くそばを食べたが、美味しいそばだったとの思いは残っていない。

今回、口には出さなかったものの、前回と同じよう

なものだろう、願えるなら御飯をとっていた。食卓には、赤かぶの漬物、ごみ、アスパラガスなどが並んでいたの、摘んで食べてみた。これはいけると思った。そして程なくそばが出た。食べてみた。…美味しい!実に美味しい!こんな筈はないと思いついながらも、ついお替りをしてしまった。明らかに昔とは違う思いが残った。

この時から、できるだけ機会を作り、そばを食べるようにしている。まだまだ味おんちの状況にはあるが。私は歴史が好きなきこともあり、南会津地方の歴史を学ぶ一環として、御蔵入三十三観音巡りをしながら史跡などを見学しているが、その際の昼食にはそばを食べる。

そばに出てくる具や薬味、そして茹で方などは店によってかなり違うなど感じるようになった。私も“通”になれるかなと思いついながらも、時には味噌ラーメンも食べながら…。

そば道楽とはどんなことを言うのかな、と柄にもないことを考える余裕(?)さえ出てきた。

そばマップに載っているそば屋さん、待っていてください。食べにいきますからね。



あて先 〒967-0004

福島県南会津郡田島町大字田島字根小屋甲4277-1

南会津農林事務所 地域農林企画室

TEL 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256

E-mail minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp

ホームページ <http://www.aff.pref.fukushima.jp/minamiaizu/>

みなさんのご意見ご感想をお寄せください。

タイトル横の写真(撮影:齋藤(敏))  
三岩岳を望む  
(伊南村白沢)

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています。

この広報紙は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆)インキを使用しています。

PRINTED WITH  
SOY INK™